

徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業について

1 基本設計の完了

（1）設計のポイント

・コンセプト

敷地に鎮座する「巨大な箱」ではなく、威圧感を軽減し、
周囲と連続して敷地に舞うように広がる「優しいランドスケープ」として計画。

・施設規模

大ホール（1934席：立見席除く）、小ホール（405席）

多目的スタジオ（300㎡）、リハーサル室（180㎡）

活動室（4室）、カフェ、駐車場など

（※実施設計において、鑑賞環境の向上等を図るため、席数や面積は変動する場合あり）

・防災対策

<地震> 耐震性の高い「鉄筋コンクリート造」等の大ホール及び小ホール
により、震度7の巨大地震でも倒壊しない構造を実現。

<水害> 発電機や受水槽は、津波浸水想定（2m程度）を超える高さに
配置し、発災時の機能継続に配慮。

・グリーン化対策

国の方針を先取りして、エネルギー消費量の30%を削減。

（2）埋蔵文化財の保存方針

「現地保存」を原則とする。

（インフラと干渉する一部分のみを「記録保存」とする。）

2 実施設計の開始

（1）埋蔵文化財の対応

現地保存する遺構に影響しない設計とし、「寺島口門台」については、
歴史的価値を体感する場として見せる工夫等を実現させる。

（2）将来を見据えた設計の継続

使いやすさや鑑賞環境の質の向上はもとより、ランニングコストなど開館後を
見据えた設計協議の継続。

（3）実施設計スケジュール

現地保存する遺構を設計に適切に反映させるため、
実施設計の期間を「3カ月」延長して対応。（令和5年8月末まで）

3 管理運営計画の検討

(1) 徳島文化芸術ホール（仮称）管理運営計画検討委員会の開催

第1回（令和4年3月8日開催）、第2回（令和4年4月25日開催）を含め、6回程度の委員会を開催し、パブリックコメント等を経て、「徳島文化芸術ホール（仮称）管理運営計画」を策定。

(2) 県民ワークショップ（仮称）の開催

8月以降に複数回のワークショップを開催し、県民の声を管理運営計画に反映。

4 今後のスケジュール（予定）

令和4年6月～	設計契約締結、実施設計
令和4年度中	管理運営計画策定
令和5年7月	着工
令和8年度中	竣工・開館